

科目番号	B 2 0 5 A								
科目名	樹木医学								
担当教員	吉岡 正樹		所属等	(一社)日本樹木医会兵庫県支部					
	稻葉 広			(一社)日本樹木医会兵庫県支部					
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献		
対象学年	2年			授業形態	講義・演習				
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	2			
授業時間数	1 5 コマ			( 3 0 単位時間 )					
実務経験のある教員による授業科目			<input checked="" type="radio"/>	左の実務経験の内容	樹木医				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無			—	左の実務経験の内容	—				
実務経験を活かした授業内容	実務経験豊富な樹木医により、樹勢診断等の実践的な授業を展開する。								

目的	樹木に関する初步的な樹勢診断を行えること。						
概要	樹木医補資格養成機関として、樹木全般における基礎的な知識を習得し、実際に樹木治療等を体験する。						
キーワード	①樹木医総論 ②樹木の診断と管理法 ③樹木と土壤・菌類のかかわり ④樹木診断(実習) ⑤樹木治療(実習)						
関連する科目	樹木学、樹木学実習、森林保護学、森林保護学実習						
到達目標	<input checked="" type="radio"/>	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得					
	<input checked="" type="radio"/>	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得					
	—	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得					
評価方法	筆記試験80%、履修態度20%						

授業計画	テーマ	講義内容
1	樹木医総論	樹木医制度の概要、樹木保護に関する制度
2	樹木医総論	樹木の構造と機能、葉、梢端、枝、幹、樹皮、根の診断と手当て
3	樹木の診断と管理法	樹木の生理と診断
4	樹木の診断と管理法	樹木の剪定・移植、樹木と土壤の関係
5	樹木の診断と管理法(剪定)	剪定実習、樹木の適切な管理技術
6	樹木の診断と管理法(剪定)	剪定実習、樹木の適切な管理技術
7	樹木の診断と管理法(土壤)	土壤実習、樹木根茎の調査法
8	樹木の診断と管理法(土壤)	土壤実習、樹木根茎の調査法
9	樹木診断	樹木と腐朽病害
10	樹木診断	農薬の適正利用
11	樹木の治療法	VTA法と診断機器
12	樹木の治療法	土壤改良の知識
13	樹木治療	近隣地域での樹病木の観察実習(伊和神社)
14	樹木治療	近隣地域での樹病木の観察実習(伊和神社)
15	試験	

テキスト	資料を配布する。
参考書	図解 樹木の診断と手当て—木を診る・木を読む・木と語る(堀大才、岩谷美苗、農文教、2001)
関連する資格	樹木医補、森林情報士2級
備考	

科目番号	B207A				
科目名	森林保護学				
担当教員	山本 福壽	所属等	鳥取大学 元特任教授		
科目区分	生態・環境		人材養成の方針	即戦力	リーダー 地域貢献
対象学年	2年		授業形態	講義・演習	
開講時期	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	単位数 2
授業時間数	15コマ ( 30 単位時間 )				
実務経験のある教員による授業科目	<input checked="" type="radio"/>		左の実務経験の内容	樹木医	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	-		左の実務経験の内容	-	
実務経験を活かした授業内容	実務経験豊富な樹木医により、樹勢診断等の実践的な授業を展開する。				

目的	森林・樹木とは何かを理解し、森林・樹木に及ぼす危害の要因と防除について学習する				
概要	森林と樹木の正確な認識をベースに、森林にダメージを与える気象的、生物的、および人為的要因を解析し、それらの影響の現れ方を解説するとともに、危害の予防や除去に関する技術的な方針論についても講述する。まず基礎的な項目として樹木の成長生理と森林の生態を講じ、これによって正確な森林・樹木の理解を促し、この知識をベースとして森林の健全性や森林保護とは何かを解説する。すなわち森林に危害を与える諸因子についての具体例を挙げ、健全な森林の育成・保全にかかわる知識と技術について講述する。				
キーワード	(1)森林の生態、(2)樹木の生理成長、(3)気象的要因による危害、(4)生物的要因による危害、(5)人為的要因による危害				
関連する科目	森林生態学、造林学、樹木学、樹木医学、森林保護学実習				
到達目標	<input checked="" type="radio"/>	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得			
	<input checked="" type="radio"/>	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得			
	-	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得			
評価方法	筆記試験90%、履修態度10%				

授業計画	テーマ	講義内容
1	生物多様性の場としての森林	森林・樹木の進化史
2	生物多様性の場としての森林	生態学ことはじめ
3	生物多様性の場としての森林	世界の森林と林業
4	生物多様性の場としての森林	日本のスギ・ヒノキ
5	樹木とは何か	樹木の環境ストレス応答
6	樹木とは何か	樹木の成長と水
7	樹木とは何か	樹木の成長と重力
8	樹木とは何か	樹木の病害
9	森林の保護	森林保護学の概論
10	森林の保護	森林の健全性と危害
11	森林の保護	森林・樹木の病害
12	森林の保護	森林・樹木の虫害
13	森林の保護	森林と獣害
14	森林の保護	外来生物（樹木）の問題
15	試験	

テキスト	パワーポイントによる講義が主体。前もってプリントを配布する。
参考書	1. 森林保護学（朝倉書店）、2. 森林保護学（文永堂）
関連する資格	森林情報士2級、樹木医補
備考	

科目番号	B 2 0 7 B											
科目名	森林保護学 実習											
担当教員	尾崎 真也			所属等	県立森林大学校 森林教育専門員							
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献					
対象学年	2年			授業形態	実習							
開講時期	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	単位数	1						
授業時間数	1 5 コマ				( 3 0 単位時間 )							
実務経験のある教員による授業科目	<input checked="" type="radio"/>		左の実務経験の内容	森林病害虫等防除業務								
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>		左の実務経験の内容	-								
実務経験を活かした授業内容	森林病害虫防除の実務経験をもとに、実際に発生した被害や対策を現場で確認しながら、講ずべき被害対策について学ぶ。											

目的	森林保護学（講義・演習）で学習した森林被害のうち、兵庫県内で特徴的な森林被害についての現状や対策、課題について理解を深める。						
概要	講義と被害対策現地の見学により、被害の現状や被害防除対策について理解を深める						
キーワード	①森林被害地見学（マツ枯れ、ナラ枯れ、獣害、風雪害など）②森林病害虫の被害と対策 ③ニホンジカ・ノウサギの被害と柵の設置効果 ④マツノマダラカミキリ防除戦略 ⑤気象災害からの復旧						
関連する科目	森林保護学、樹木医学						
到達目標	<input checked="" type="radio"/>	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得					
	<input type="radio"/>	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得					
	<input type="radio"/>	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得					
評価方法	レポート60%、出席20%、態度20%						

授業計画	テーマ	講義内容
1	カシノガキイムシの被害と被害対策	カシノガキイムシの被害と対策、カシノガキイムシ組立設置実習
2	カシノガキイムシの被害と被害対策	カシノガキイムシ被害判別
3	カシノガキイムシの被害と被害対策	カシノガキイムシ防除現場見学
4	カシノガキイムシの被害と被害対策	カシノガキイムシ被害防除の課題と対策を現地検討（レポート）
5	採種園のカメムシ被害と対策	カメムシの生態と発生状況
6	採種園のカメムシ被害と対策	カメムシによる林業種子の被害と対策
7	採種園のカメムシ被害と対策	カメムシ捕獲調査、カメムシ袋かけ作業
8	採種園のカメムシ被害と対策	カメムシ被害対策についての振り返り（レポート）
9	ナラ枯れ跡地の再生	ナラ枯れ被害跡地の実態調査
10	ナラ枯れ跡地の再生	ナラ枯れ被害跡地の実態調査
11	ナラ枯れ跡地の再生	ナラ枯れ跡地のシカ食害対策（植生保護柵）について
12	ナラ枯れ跡地の再生	森林病害虫に強い森林造成方法の考察（レポート）
13	ニホンジカ・ノウサギによる被害と対策	ニホンジカ・ノウサギによる被害と対策
14	ニホンジカ・ノウサギによる被害と対策	ニホンジカ・ノウサギ対策柵の効果的設置法
15	ニホンジカ・ノウサギによる被害と対策	ニホンジカ・ノウサギ対策柵の成功要因と失敗要因（レポート）

テキスト	資料を配付
参考書	1. 森林保護学（朝倉書店）、2. 森林保護学（文永堂）
関連する資格	森林情報士2級、樹木医補
備考	

科目番号	B 2 0 8 A								
科目名	保健休養学 2								
担当教員				所属等	氷ノ山 韶きの森 インタープリター				
	今井 通子				県立森林大学校特任大使				
	上原 巍				東京農業大学 教授				
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献		
対象学年	2年			授業形態	講義・演習				
開講時期	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	単位数	2			
授業時間数	15 コマ			( 30 単位時間 )					
実務経験のある教員による授業科目			一	左の実務経験の内容	一				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無			○	左の実務経験の内容	森林セラピー、森林療法				
実務経験を活かした授業内容	日本での森林セラピーの実践者である今井通子氏からは森林セラピーの概要とエビデンスを学ぶ。また、森林療法の実践者である上原巌氏からは、森林療法の概要と演習を学ぶ。								

目的	多自然地域に居住し、地域貢献する人材として心身の健康に寄与する森林利活用法について必要な知識を修得する。		
概要	森林をフィールドとして実施する「森林セラピー」、「森林療法」、心身の健康について学ぶとともに、心身の健康に寄与する森林利活用法について森林整備方針を提案する。		
キーワード	森林環境教育、森林セラピー、森林療法		
関連する科目	保健休養学 1、森林生態学、森林機能保全、野生鳥獣被害対策、森林林業概論、森林政策、森林計画、造林学、里山論、救急救命		
到達目標	一	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得	
	一	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得	
	○	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得	
評価方法	課題50%、履修態度30%、出席20%		

授業計画	テーマ	講義内容
1	インタープリター	インタープリターの活動概要
2	インタープリター	インタープリター・ガイド
3	インタープリター	氷ノ山の自然
4	インタープリター	響きの森 館内見学
5	森林セラピー	森林セラピーエビデンス
6	森林セラピー	森林セラピーエビデンス
7	森林セラピー	森林セラピーティ
8	森林セラピー	森林セラピーティ
9	森林セラピー	森林セラピーティ
10	森林アメニティ学	森林アメニティ学の概要
11	森林アメニティ学	地域福祉における森林保健活動
12	森林療法学	森林療法の概要
13	森林療法学	森林療法のプログラム
14	森林空間整備	景観施設等
15	森林空間整備	景観施設等

テキスト	別途指示する
参考書	別途提示する
関連する資格	森林情報士 2 級
備考	

科目番号	B209A					
科目名	造園学2					
担当教員	境 亮典		所属等	(有)サカイ工業 代表取締役		
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー 地域貢献
対象学年	2年			授業形態	講義・演習	
開講時期	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	単位数	2
授業時間数	15 コマ			( 30 単位時間 )		
実務経験のある教員による授業科目	<input checked="" type="radio"/>		左の実務経験の内容	造園デザイナー(経営者)		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>		左の実務経験の内容	-		
実務経験を活かした授業内容	自らデザインした庭園のコンセプトの解説等を交え、空間の活かし方や造園資材の選定等を学びながら、身近な緑化空間の計画、設計に取り組む。					

目的	造園学講義で得た知識を基に、実際の緑化空間(現場)に足を運び観察。より具体的、身近に緑化空間を計画・設計する。また事前の調査、計画の重要性と手法を修得する。					
概要	現況把握から問題や要望の抽出、最適な基本計画の立案という一連の流れを経て、実際に身近な空間の設計を行う。この一連の流れと、プレゼンテーションによる説明・訴求能力の必要性を学ぶ。また造園資材としての木材を取り巻く現況にも触れながら、造園分野での利活用についても学ぶ。					
キーワード	現況把握 問題抽出 造園計画・提案 デザイン 緑化空間 プrezentation					
関連する科目	造園学 樹木学 樹木学実習 森林計画					
到達目標	<input checked="" type="radio"/>	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得				
	<input type="radio"/>	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得				
	<input type="radio"/>	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得				
評価方法	計画・設計図面の内容評価60% 成果物のプレゼンテーション手法、能力評価40%					

授業計画	テーマ	講義内容
1	オリエンテーション、製図実習	講義の方針、内容について JWCADでの作図実習
2	製図実習	JWCADでの作図実習
3	製図実習	JWCADでの作図実習
4	製図実習	トレースによる課題実習
5	現地実習	樹木農場の観察及び、剪定の手法について
6	現地実習	樹木農場の観察及び、剪定の手法について
7	現地実習	庭園展示場の観察(素材・空間・設備等)
8	現地実習	庭園展示場の観察(素材・空間・設備等)
9	課題製作	基本計画(コンセプト立案)・ゾーニング・基本設計
10	課題製作	基本設計(平面図・立面図)
11	課題製作	基本設計(平面図・立面図)
12	課題製作	基本設計(平面図・立面図)
13	課題製作	基本設計(プレゼン資料作成)
14	成果物発表会	プレゼンテーション及び講評
15	成果物発表会	プレゼンテーション及び講評

テキスト	講師作成資料
参考書	ランドスケープデザイン(昭和堂) 造園図面の表現と描法(誠文堂新光社) 造園詳細図集(オーム社)
関連する資格	森林情報士2級、樹木医補
備考	

担当: 岡田

科目番号	B 2 1 0 B								
科目名	野生鳥獣被害対策 実習 1								
担当教員	森林教育専門員		所属等	兵庫県立森林大学校					
	鴻谷 佳彦			(株)葉山 代表取締役					
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献		
対象学年	2年			授業形態	実習				
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	1			
授業時間数	15 コマ			( 30 単位時間 )					
実務経験のある教員による授業科目			—	左の実務経験の内容	—				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無			○	左の実務経験の内容	ジビエ料理				
実務経験を活かした授業内容	ジビエ料理専門店の経営者からジビエの調理方法について学ぶ								

目的	森林における野生鳥獣の防除法を学ぶとともに、ジビエ料理体験を通じて総合的な野生鳥獣対策とは何かを考える。					
概要	伐採跡地の確実な更新を確保するため、造林地の保護のための防護柵の設置や維持管理の方法について、実践形式で学ぶ。また、捕獲した獲物の有効活用として注目されているジビエ料理を体験し、多自然地域において有効かつ総合的な鳥獣被害対策とは何かを検討する。					
キーワード	①獣害防護柵、②ジビエ料理					
関連する科目						
到達目標	—	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得				
	○	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得				
	○	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得				
評価方法	習得状況40%、出席30%、態度30%					

授業計画	テーマ	講義内容
1	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
2	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
3	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
4	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
5	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
6	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
7	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
8	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
9	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
10	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
11	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
12	動物痕跡調査、防護柵の点検補修	造林地に架設した鳥獣防護柵内の痕跡調査、柵の点検と補修
13	ジビエ料理実習	ジビエ料理の調理実習
14	ジビエ料理実習	ジビエ料理の調理実習
15	ジビエ料理実習	ジビエ料理の調理実習

テキスト	
参考書	
関連する資格	樹木医補、森林情報士2級
備考	

科目番号	B 2 1 1 B								
科目名	里山論								
担当教員	山瀬 敬太郎		所属等	県立森林林業技術センター 所長					
	山下 廣行			森林インストラクター兵庫 副会長兼事務局長 NPO法人ひょうご森の俱楽部 会長					
科目区分	生態・環境			人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献		
対象学年	2年			授業形態	実習				
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数	1			
授業時間数	15 コマ			( 30 単位時間 )					
実務経験のある教員による授業科目			—	左の実務経験の内容	—				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無			—	左の実務経験の内容	—				
実務経験を活かした授業内容									

目的	人と里山の新たな関係を理解し、里山の見方と種多様性の高い再生・保全の方法、ひいては地域の元気、活性化に寄与するための基礎知識を学ぶ。		
概要	里山を保全するだけでなく、現代社会における新たな役割を見出し、兵庫県民の高い市民力を活かし、人と里山とが意識的に共生し、互いに恵みを与え合う関係を創出する里山の一つのモデルとして、日本をはじめ世界に発信していくための取り組みを紹介する。		
キーワード	①里山とは ②生物多様性と里山 ③里山の維持管理 ④里山調査法		
関連する科目			
到達目標	—	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得	
	○	森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得	
	○	多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得	
評価方法	レポート50%、活動体験（出席・態度）25%、調査（出席、態度）25%		

授業計画	テーマ	講義内容
1	里山とは・里山調査法	里山の定義、生物多様性と里山、管理方法、植生調査法
2	里山とは・里山調査法	里山の定義、生物多様性と里山、管理方法、植生調査法
3	里山とは・里山調査法	里山の定義、生物多様性と里山、管理方法、植生調査法
4	里山とは・里山調査法	里山の定義、生物多様性と里山、管理方法、植生調査法
5	フィールドワーク	都市近郊の里山の利活用調査、（森林ボランティア活動体験を含む）
6	フィールドワーク	都市近郊の里山の利活用調査、（森林ボランティア活動体験を含む）
7	フィールドワーク	都市近郊の里山の利活用調査、（森林ボランティア活動体験を含む）
8	フィールドワーク	都市近郊の里山の利活用調査、（森林ボランティア活動体験を含む）
9	フィールドワーク	中山間地域の里山林（主に広葉樹）の利活用状況調査
10	フィールドワーク	中山間地域の里山林（主に広葉樹）の利活用状況調査
11	フィールドワーク	中山間地域の里山林（主に広葉樹）の利活用状況調査
12	フィールドワーク	中山間地域の里山林（主に広葉樹）の利活用状況調査
13	フィールドワーク	中山間地域の里山林（主に広葉樹）の利活用状況調査
14	フィールドワーク	中山間地域の里山林（主に広葉樹）の利活用状況調査
15	フィールドワーク	中山間地域の里山林（主に広葉樹）の利活用状況調査

テキスト	
参考書	・里山を学ぶ（（公社）兵庫県緑化推進協会 2018） ・兵庫県立人と自然の博物館（2010）生物多様性調査法
関連する資格	樹木医補、森林情報士2級
備考	